

◎政近 準子

皆様はきっと、こう思っているでしょう。なぜ、医学検査学会にファッションなのか？また、新年早々能登地震が起き、人々の心は不安に襲われ復興に必死な今、なぜファッションなのかと。

ただでさえファッションは、どこか煌びやかで表面的なものというイメージが強いもの。「キラキラした見た目の話に興味はない」そんな声も聞こえてきそうです。

だからこそ「衣識革命！」魂をこめてお伝えします。

装うことは生きること、であり、あなた自身の表現であること、ファッションは平和の象徴であり、明日着ていく服を考えられるということがどれほど幸せなことなのか。

命があるなら日頃から、自身が機嫌よく、心が満たされる日々を送ることを心がけたい。

その日々の在り方からは、上質なコミュニケーションが生まれていくでしょう。その結果、自分も社会も健やかに元気になっていく、ファッションには想像を越えるパワーがあります。

まだ同時に装うことは元気になるだけでなく、心の癒しになることをご存知でしょうか？マイナスをゼロにする力、人生は前向きでいれる日ばかりではなく、どうしても心も体も追いつかない日だってありますよね、。装いは、しんどい心の背中を押しながら免疫力を高める、そんな効果があると感じています。

辛いときは回復力と直結し、元気な時も更なる自己肯定感のアップに繋がり、いざという大切な機会を制することもできる。私は多くの顧客の人生から、このリアルを目の当たりにしてきました。

豊かな人間生活の基盤は「衣食住」にあり、その中でも最も身近で身体と一体化しているのが衣です。

人間が生まれて初めて触れる人間の肌の温かさ、その代わりになるのが「おくるみ」で、赤ちゃんに母親の身体の中と同じような安心感を感じ、あらゆる危険から身を守られる感覚を得ます。ファッションの最も重要な基本「安心安全」を体感し、私たちが社会で生きていくには、服の安心安全があって成り立つことを肌で知ります。

ファッションが表面的なものだと思い込んでいる人にこそ、また医療に従事するプロフェッショナルであるなら、目から鱗の新しい概念やひらめきをこの機会に得て、表現して頂きたいと願います。ファッションは口ほどにものを言う「メッセージ」であり、服はあなたそのものなのですから。

私自身、潰瘍性大腸炎という難病を患い、全身の皮膚がボロボロになって精神的にも辛い状況になったことがあります。初の子育てのストレスも重なり、自律神経失調症も併発する事態に。自宅療養をするも状態は悪くなる一方でしたが、病を抱えつつも社会復帰を決意します。その時、心の支えとなったのがファッションでした。

爛れた顔と身体の皮膚を隠すように服を着ていた自分が、ある日これも個性だと気づくようになる。

病も「持ち味」と受け止め、私は自分を取り戻していきます。

その後は、装いの真の力を身につけて世の中に伝えたいことを最大限にプレゼンテーションするようになり、事業も人生も、どんどん加速していきました。

このような経験を社会に役立てたい、人々のパーソナルを服装で表現したいと起業したのが23年前。多くのメディアに取り上げられ、油野氏の目に留まってこの度の機会を頂くことになりました。

起業した会社名が「ファッションレスキュー」なのは、同じような思いで苦しむ人をファッションから救いたい、そんな思いからだったのです。

現在ではこうした装いの力を「装力」と定義し、それぞれの人の真の価値が世の中に全うに伝わる方法を伝授しています。

講演会では、この「装力」の話を中心に、今日からどう生着るのかを問う有意義な60分に致します。

衣識革命を起こし、今日からの日々にズキズキ、ワクワクが起こりますように。